

単元 「F 武道(柔道)」

1 単元目標

- (1) 自己の能力に応じて次の技能を高め、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。
 - ア 素手で相手と直接組み合って技を競い合うという格闘形式の運動の特性を理解し基本動作や対人的技能を身につけ、得意技を生かした練習や試合ができるようにする。
 - イ 投げ技、固め技、技の連絡変化などについては、自己の能力に応じた技を選び、相手の動きに対応した攻防ができるようにし、試合で生かせるようにする。 (技能の内容)
- (2) 伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、練習や試合ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、禁じ技を用いないなど安全に留意して練習や試合ができるようにする。 (態度の内容)
- (3) 自己の能力に応じた技を習得するための練習の仕方や試合の仕方を工夫することができるようにする。 (学び方の内容)

2 単元の評価規準

I 運動への関心・意欲・態度

柔道の特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わえるよう伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、進んで練習や試合に取り組もうとするとともに、勝敗に対して公正な態度をとろうとする。また、禁じ技を用いないなど、安全に留意して練習や試合をしようとする。

- ① 自分の能力に応じた技を習得する喜びや相手の動きに対応して、攻防を展開して競い合う柔道の楽しさを味わおうとする。
- ② 仲間と協力して助け合ったり教えあったりしようとする。
- ③ 勝敗や結果を受け入れたり、礼儀作法を重視しようとしている。
- ④ 用具や服装、練習場の安全を確かめたり、禁じ技を用いないなど自他の安全に留意しようとする。

II 運動についての思考・判断

自分の能力に応じた技を習得するための課題を設定し、その解決を目指して、練習の仕方や試合の仕方を工夫している。

- ① 自分に合った技を選び、課題を設定し、課題解決に適した練習方法を選択している。
- ② 試合では、自分の能力を把握して、使える技を選んでいる。
- ③ 相手の動きや体勢に応じて技をかける機会を見つけている。
- ④ 課題の達成状況をとらえ、練習や試合の仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。

III 運動の技能

柔道の特性に応じた技能を身につけるとともに、その技能を高め、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができる。

- ① 練習や試合において、身につけた、基本動作と対人的技能で攻撃したり、相手の技をかわしたりすることができる。
- ② 自分の能力と相手の能力に応じた技を用いて、練習や試合ができる。
- ③ 試合では相手の動きや技に応じて技をかけたり、返したりすることができる。

IV 運動や安全についての知識・理解

柔道の特性や学び方、技術の系統性・構造、合理的な練習の仕方を理解するとともに、試合や審判の方法を理解し、知識を身に付けている。

- ① 柔道の伝統的な考え方、柔道の特性、基本動作や対人技能の構造を知っている。
- ② 柔道の礼儀作法、試合の運営や審判法を理解し、説明できる。
- ③ 自分の課題に合った練習や試合の仕方、練習計画の立て方を知っている。
- ④ 禁止事項や自他の安全を確保するための方法を知っている。

3 評価規準例「武道（柔道）」

	A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する
I 関心・意欲・態度	<p>①自分の能力に応じた技を習得する喜びや相手の動きに対応して、攻防を展開して競い合う柔道の楽しさを自ら進んで味わおうとする。</p> <p>②練習や試合では、審判の判定や指示に従うとともに仲間と協力して積極的に教え合おうとする。</p> <p>③勝敗や結果を素直に受け入れたり自他を尊重し礼儀作法を重視しようとしている。</p> <p>④自ら進んで用具や服装、練習場の安全を確かめたり禁じ技を用いないなど自他の安全に留意しようとする。</p>	<p>①自分の能力に応じた技を習得する喜びや相手の動きに対応して、攻防を展開して競い合う柔道の楽しさを味わおうとする。</p> <p>②練習や試合では、審判の判定や指示に従うとともに仲間と協力して教え合おうとする。</p> <p>③勝敗や結果を受け入れたり、礼儀作法を重視したりしようとしている。</p> <p>④用具や服装、練習場の安全を確かめたり禁じ技を用いないなど自他の安全に留意しようとする。</p>	<p>①技をしかけ柔道の楽しさを味わおうとする。</p> <p>②練習や試合では、審判の指示には従おうとする。</p> <p>③勝敗や結果のみにこだわり、礼儀作法は仲間や教師に言われてしようとしている。</p> <p>④安全に対して配慮しようとする。</p>
II 思考・判断	<p>①自分に合った技を選び、得意技として身に付けるための課題を設定し、課題解決に適した練習方法や学習の場を選択している。</p> <p>②試合では、自分や相手の能力、学習段階を把握して、使える技や判定の仕方などを選んでいく。</p> <p>③相手の動きや体勢などに応じて、有効な技や技をかける機会などを見付けている。</p> <p>④自ら進んで課題の達成状況をとらえ、練習や試合の仕方を見直したり新しい課題を選んだりしている。</p>	<p>①自分に合った技を選び、課題を設定し、課題解決に適した練習方法や学習の場を選択している。</p> <p>②試合では、自分の能力を把握して、使える技や判定の仕方などを選んでいく。</p> <p>③相手の動きや体勢などに応じて、技をかける機会などを見付けている。</p> <p>④課題の達成状況をとらえ、練習や試合の仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。</p>	<p>①自分の能力に適した技が何であるか分かっている。</p> <p>②試合では指示に従って技をかけたり、判定している。</p> <p>③習った技をかけようとする。</p> <p>④指示に従って練習や試合をしている。</p>
III 運動の技能	<p>①練習では、身に付けた基本動作と対人的技能で積極的に攻撃したり、相手の技をかわしたりすることができる。</p> <p>②自分の能力と相手の能力に応じた技で練習や試合をすることができる。</p> <p>③試合では、相手の動きや技に応じ、技をかける、防ぐ、返すなどを行うことができ、相手の攻撃を自分の攻撃につなげることができる。</p>	<p>①練習では、基本動作と対人的技能で攻撃したり、相手の技をかわしたりすることができる。</p> <p>②自分の能力に応じて身に付けた得意技で練習や試合をすることができる。</p> <p>③試合では、相手の動きや技に応じ、技をかける、防ぐ、返すなどを行うことができる。</p>	<p>①力を頼りに技をかけたり、相手の技を防いだりする。</p> <p>②自分のかけやすい技を使って試合や練習ができる。</p> <p>③試合では、相手の動きや技に応じ、自分の技に改善の余地がある。</p>
IV 知識・理解	<p>①柔道の伝統的な考え方、柔道の特性、技の系統性、基本動作や対人的技能の構造を具体的に説明できる。</p> <p>②柔道の礼儀作法、試合の運営やルール、審判の方法を説明できる。</p> <p>③自分や相手の課題に合った練習や試合の仕方、練習計画の立て方を説明できる。</p> <p>④技の効果を高める方法や自他の安全を確保するための方法を説明できる。</p>	<p>①柔道の伝統的な考え方、柔道の特性、基本動作や対人的技能の構造を言ったり、書いたりできる。</p> <p>②柔道の礼儀作法、試合の運営やルール、審判の方法について具体例を挙げている。</p> <p>③自分の課題に合った練習や試合の仕方、練習計画の立て方を言ったり書いたりできる。</p> <p>④禁止事項や自他の安全を確保するための方法を言ったり書いたりできる。</p>	<p>①柔道の特性、基本動作や対人的技能などを知っている。</p> <p>②柔道の礼儀作法やルールの一部を知っている。</p> <p>③指示により、自分の課題や練習方法を知っている。</p> <p>④禁止事項を知っている。</p>

4 評価規準の評価観点例「武道（柔道）」

	A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する
I 関心・意欲・態度	<p>①ア学習した技から無理なくタイミング良くかけられる技を見つけ得意技にしている。 イ移動打込み・連絡技・変化技を自ら進んで練習している。</p> <p>②ア審判の判定は試合を見る角度により、微妙に異なることを理解し、状況を教え合っている。</p> <p>③ア試合の勝ち負けに関係なく、正しい礼法ができています。 イ試合に勝った場合でも、試合場内で相手の前で喜んだりしない。</p> <p>④ア手足の爪は事前に切り、長い髪は束ね、時計やめがね・貴金属ははずしている。</p>	<p>①ア学習した技から力任せではなく、スムーズにかけられる技を見つけ習得している。 イ移動打込み連絡技・変化技の練習においては進んで取り組んでいる。</p> <p>②ア試合中の動作の状況を話し合いながら、審判の判定や指示に従っている。</p> <p>③ア試合の勝ち負けに関係なく、正しい礼法ができています。</p> <p>④ア手足の爪は事前に切り、長い髪は束ね、時計やめがね・貴金属ははずしている。</p>	<p>①ア既習の技をいろいろと仕掛けている。</p> <p>イ自分のかけやすい技をかけている。</p> <p>②ア審判の判定や指示には従っている。</p> <p>③ア負けた場合には、礼法が疎かになりがちで、試合に勝つことにこだわっている。</p> <p>④ア指摘により気づき、長い髪は束ね、時計やめがね・貴金属は身体からはずす。</p>
II 思考・判断	<p>①ア自分の体型・体格にあった技を得意技として習得しようと課題設定し、解決に向けて努力する。</p> <p>②ア相手の体型・体格に応じて、自分の技の中から有効な技を選んでいる。 イ試合者の動きの応じて、審判として適切な方向へ移動しながら状況を見て、判定している。</p> <p>③ア相手が前へ出る時に引き出す技例えば背負い投げ・体落とし・払い腰、さがる時の大外刈り・大内刈りなど技をかける機会を見つけている。</p> <p>④ア相手の体勢がどのような時に技がかかり、またどのような時にかからないかを見つけることができる。自分が投げられる状況も理解できる。</p>	<p>①ア自分の体型・体格にあった技を選び習得しようと課題を設定し解決のための練習をする。</p> <p>②ア相手の体型・体格に応じて自分の技を選んでいる。 イ試合者の動きに応じて、移動しながら状況を見て、判定している。</p> <p>③ア相手が前へ出る時に引き出す技例えば背負い投げ・体落とし・払い腰、さがる時の大外刈り・大内刈りなど技をかける機会を見つけている。</p> <p>④ア相手の体勢がどのような時に技がかかり、またどのような時にかからないかを見つけることができる。</p>	<p>①ア自分の体型・体格等にふさわしい技を知っている。</p> <p>②ア審判の「まで」には従い、技をかけることをやめている。 イ審判として、判定している。</p> <p>③ア背負い投げ・体落とし・大腰・払い腰・小内刈り・大内刈りなど既習技をかけることができる。</p> <p>④ア指示・助言に従って技をかけようとする。</p>
III 運動の技能	<p>①ア技をかけるために自ら動き、相手を崩すように移動させ、技をかける。 イ相手の動きから相手の技を見抜き、技をかわすことができる。</p> <p>②ア自分の体型・体格だけでなく相手の経験や能力に応じて、軽く投げたり、投げたかを調節できる。</p> <p>③ア相手の前後左右の動きを利用して相手を崩して技をかけることができる。同じ技でも、相手の動きに応じてかけ方を変えることができる。 イ相手の技を自分の動きによって防いだり、燕返し、大内刈返しなどで攻撃に変えることができる。</p>	<p>①ア技をかけるために自ら動き、相手を移動させ、技をかける。 イ相手の動きから相手の技を予想しかわすことができる。</p> <p>②ア相手の体型・体格に応じて身につけた得意技を利用して乱取、試合ができる。</p> <p>③ア相手が前へ出る時に引き出す技例えば背負い投げ・体落とし・払い腰、さがる時には大外刈り・大内刈りなど技をかけることができる。 イ相手の技を動きによって防いだり、燕返し、大内刈返しができる。</p>	<p>①ア重心移動のない状態の相手に対して技をかける。 イ相手の技に対して、力を頼りに防ぐことができる。</p> <p>②ア自分の一番かけやすい技を相手に関係なく練習や試合でかけることができる。</p> <p>③ア相手の動きに関わらず、自分の技をかけることができる。 イ力に頼るが相手の技を防ぐことができる。</p>
IV 知識・理解	<p>①ア相手を敬い、礼に始まり礼に終わるなどの行動様式やその精神を理解し説明できる。</p> <p>②ア武道場の出入りの際の一礼や常に柔道衣を正しく着用でき、模範となっている。</p> <p>③ア自分の技がかからない原因を知り、改善するための練習方法や計画の立て方を説明できる。</p> <p>④アより安全に相手を投げるための方法や自分の安全のために相手の技にどう対応すべきかが説明できる。</p>	<p>①ア相手を敬い、礼に始まり礼に終わるなどの行動様式を理解している。</p> <p>②ア武道場の出入りの際の一礼をし、柔道衣を正しく着用している。</p> <p>③ア自分の技がかからない原因を知り、そのための練習方法や計画の立て方の見通しがたつ。</p> <p>④ア禁止事項のいくつかは、自他の安全を確保するためのものであることを理解している。</p>	<p>①ア心身の発達に有効であるという特性や組み方・受け身・固め技の基本動作など知っている。</p> <p>②ア柔道衣の正しい着用方法を知っている。</p> <p>③ア指示により自分の課題が理解でき、練習方法を見つけることができる。</p> <p>④ア払い腰等の軸足を内側から払う、内股などをかけ頭からつつこむ等の禁止事項を知っている。</p>

5 指導と評価の計画例「武道（柔道）」＜2年生（15時間）＞

時間	ねらい・生徒の学習の活動	具体の規準・方法	学習活動における評価の観点
はじめ （ 1時間 ）	(1) 柔道の特性や学習の仕方を理解する。 (2) 自分やグループの課題を決める。 (3) 学習ノート，学習資料の活用の仕方を理解する。	<u>I-①</u> 行動観察 <u>II-①</u> 学習ノート <u>IV-①</u> 学習ノート	・柔道の特性に興味を持ち楽しさや喜びを味わおうとする。 ・自己の課題を見つけようとする。 ・学習ノート・学習資料の活用方法を理解しようとする。
なか 1 （ 4時間 ）	ねらい1（今ある能力で工夫） (1) 自分に合った技を選び得意技として身に付けるための練習をする。 (2) お互いに教え合いながら練習をする。 (3) 速さ・強さを持って投げられるように練習する。 (4) 安全に実施できるように、施設や用具の点検をおこなう。	<u>III-②</u> 行動観察 <u>I-②</u> 行動観察 <u>IV-③</u> 学習ノート <u>I-④</u> 行動観察	・自分に合った技を選んでいる。 ・グループ・ペアで協力し、教えあいながら練習している。 ・用具・施設などの安全面に気を配っている。 ・自分の課題を見つけて練習しようとしている。
なか 2 （ 4時間 ）	ねらい2（高まった能力に合わせて） (1) 得意技をさらに磨く (2) 自分の課題にあった練習計画に従って練習する。 (3) 相手の動きに応じて連絡技・変化技ができる。 (4) 習得した技を発表・評価（出来映えの試合）することで柔道の楽しさを深める。	<u>II-③</u> 行動観察 <u>II-①</u> 行動観察 学習ノート <u>III-③</u> 行動観察 <u>III-①</u> 行動観察 試合結果	・自らが技をかけるタイミングを作るため相手を移動させるなど工夫ができる ・自分の能力に応じて設定した課題解決に向けた練習計画をたて練習できる。 ・相手の動きや技に応じて、技をかける，技を返すなどの攻防ができる。 ・試合結果を練習に生かせる。
なか 3 （ 4時間 ）	ねらい3（さらに進んだ能力で） (1) 自分の能力に応じて身に付けた得意技で試合ができる。 (2) 相手の動きや技に応じて、技をかける，防ぐ，返すなどを行うことができる。 (3) 試合のルールや審判の方法について理解し，試合を運営することができる。	<u>I-③</u> 行動観察 学習ノート <u>II-③</u> 行動観察 <u>IV-②</u> 行動観察 <u>IV-全</u> 小テスト	・相手を尊重し，互いに協力しあいながら練習や試合ができる。 ・相手の動きや技に応じて，技をかけたり，防いだりすることができる。 ・ルールや審判方法を理解し適切に審判や試合運営ができる。 ・試合の勝ち負けにかかわらず，礼儀作法を重視し，きちんとできる。
まとめ （ 2時間 ）	自己の学習ノートの記録を手がかりにしながら，学習を振り返り，学習全体のまとめをする。 (1) 楽しかったこと，楽しくなかったことやその理由。 (2) 活動の進め方や工夫の仕方はどうだったか。 (3) 技能はどう伸びたか。	学習ノートやテストの項目、さらに毎日の評価記録簿から総括的な評価をする。	行動観察などから関心・意欲・態度の項目として次のことを評価する。 (1) 学習の準備や片付けをしていたか。 (2) 柔道に適した準備運動を行おうとしていたか。 (3) 健康・安全に留意して練習・試合をしていたか。 (4) 礼儀作法に配慮できたか。

評価観点	方法	具体の規準	項目番号	観点別評価項目（具体例）	評価結果			備考		
					評価	〇&×	特記事項	評価点	割合	
I 関心・意欲・態度	行動観察	I-①	1	新しい技能の習得に関心が高い。	A	B	C		× 1	25%
		I-①	2	スムーズにかけられる技を見つけ習得しようとしている。	A	B	C		× 1	
		I-①	3	柔道の楽しさを味わおうとしている。	A	B	C		× 1	
		I-②	4	仲間と協力しお互いに教え合っ練習している。	A	B	C		× 1	
		I-②	5	禁じ技は用いないようにしている。	A	B	C		× 1	
		I-③	6	試合や練習でも礼儀作法を重視しようとしている。	A	B	C		× 1	
		I-④	7	常に手足の爪の長さは適切にし、長い髪は束ねている。	A	B	C		× 1	
		I-④	8	時計などをはずし、安全に留意している。	A	B	C		× 1	
	学習ノート	I-①	9	学習ノートをきちんと記入している。	A	B	C		× 2	
		I-③	10	勝敗の結果を素直に受け入れ、自分を省みようとしている。	A	B	C		× 2	
合計										
II 思考・判断	行動観察・対話	II-①	11	自分の体型・体格あった技を選んでいる。	A	B	C		× 1	25%
		II-①	12	自分の能力を把握し、使える技を選んでいる。	A	B	C		× 1	
		II-②	13	試合者の動きに応じて移動しながら、状況を見て判定している。	A	B	C		× 1	
		II-③	14	相手の動きや体勢に応じて、技をかける機会を見つけている。	A	B	C		× 1	
		II-③	15	自分の体型に応じた課題を設定している。	A	B	C		× 1	
		II-④	16	自分の能力に応じた課題を設定している。	A	B	C		× 1	
	学習ノート	II-①	17	自分にあった技が選べる。	A	B	C		× 2	
		II-①	18	技の習得のために課題が設定できる。	A	B	C		× 2	
		II-④	19	課題の達成状況により、さらに新しい課題の設定ができる。	A	B	C		× 2	
合計										
III 運動の技能	行動観察	III-①	20	技をかけるために自ら動き、相手を移動させて技をかける。	A	B	C		× 1	25%
		III-②	21	自分の能力に応じて身につけた技で練習をしている。	A	B	C		× 1	
		III-③	22	相手の体格に応じて、得意技をかけることができる。	A	B	C		× 1	
	技能テスト	III-③	23	相手の体勢に応じて技の入り方を変えてかけることができる。	A	B	C		× 1	
		III-③	24	相手のかけた技をかわし、返し技で攻撃する。	A	B	C		× 1	
		III-③	25	背負い投げ、体落とし、払い腰等で投げるができる。	A	B	C		× 1	
		III-③	26	大外刈り、大内刈り等で投げるができる。	A	B	C		× 1	
		III-③	27	試合	A	B	C		× 10	
合計										
IV 知識・理解	行動観察	IV-①	28	相手を敬い、礼儀を重んじた行動様式を理解している。	A	B	C		× 1	25%
		IV-②	29	ルール、審判法について理解している。	A	B	C		× 1	
		IV-②	30	試合の運営方法を理解している。	A	B	C		× 1	
		IV-③	31	自分の課題を認識し、課題解決のための練習方法を知っている。	A	B	C		× 1	
	学習ノート	IV-④	32	禁止事項や安全に関する具体的事項を説明できる。	A	B	C		× 1	
		IV-①	33	柔道の特性や伝統的な考え方を理解している。	A	B	C		× 1	
	テスト	IV-③	34	自分の技がかからない原因を知り、練習方法の見通しが立つ。	A	B	C		× 1	
IV-全	35	小テスト	A	B	C		× 10			
合計										

総合計

総時間数 () 時間 欠度時間数 () 時間 見学時間 () 時間

特記事項

評価シート 武道(柔道) 2年生(15時間)

総時間数 () 時間, 欠席時間数 () 時間, 見学時間 () 時間

評価観点 評価方法 具体の規準 項目番号		I 関心・意欲・態度										II 思考・判断										III 運動の技能										IV 知識・理解										合計 得点					
		行動観察										学習ノート										行動観察					技能テスト					行動観察					学習ノート						テスト				
		I-①	I-①	I-①	I-②	I-②	I-③	I-④	I-④	I-①	I-③	II-①	II-①	II-②	II-③	II-③	II-④	II-①	II-①	II-④	III-①	III-②	III-③	III-③	III-③	III-③	III-③	IV-①	IV-②	IV-②	IV-③	IV-④	IV-①	IV-③	IV-③	IV-③	IV-③										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35											
観 点 別 評 価 項 目 (具 体 例)		新しい技能の習得に関心が高い。										自分の能力を把握し、使える技を選んでいる。										相手の体格に応じて、得意技をかけることができる。										柔道の運営方法を理解している。										合計 得点					
		新しい技能の習得に関心が高い。										自分の能力を把握し、使える技を選んでいる。										相手の体格に応じて、得意技をかけることができる。										柔道の運営方法を理解している。															
実施月/日																																										合計 得点					
No.	組・番	氏名																																							合計 得点						
1																																										合計 得点					
2																																									合計 得点						
3																																										合計 得点					
4																																									合計 得点						
5																																										合計 得点					
6																																									合計 得点						
7																																										合計 得点					
8																																									合計 得点						
9																																										合計 得点					
10																																									合計 得点						
11																																										合計 得点					
12																																									合計 得点						
13																																										合計 得点					
14																																									合計 得点						
15																																										合計 得点					
16																																									合計 得点						
17																																										合計 得点					
18																																									合計 得点						
19																																										合計 得点					
20																																									合計 得点						

体育授業 記録シート

年 組			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
種目名()	No.	実施月日	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
			日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
No. 組・番 氏		評価項目番号															
1																	
2																	
3																	
4																	
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
16																	
17																	
18																	
19																	
20																	
21																	
22																	
23																	
24																	
25																	
26																	
27																	
28																	
29																	
30																	
31																	
32																	
33																	
34																	
35																	
36																	
37																	
38																	
39																	
40																	

観点別評価項目例「武道(柔道)」

2年生(15時間)

評価観点	方法	具体の規準	項目番号	観点別評価項目(具体例)	
				内容	内容
I 関心・意欲・態度	行動観察	I-①	1	新しい技能の習得に関心が高い。	
		I-①	2	スムーズにかけられる技を見つけ習得しようとしている。	
		I-①	3	柔道の楽しさを味わおうとしている。	
		I-②	4	仲間と協力しお互いに教え合っ練習している。	
		I-②	5	禁じ技は用いないようにしている。	
		I-③	6	試合や練習でも礼儀作法を重視しようとしている。	
		I-④	7	常に手足の爪の長さは適切にし、長い髪は束ねている。	
		I-④	8	時計などをはずし、安全に留意している。	
	学習ノート	I-①	9	学習ノートをきちんと記入している。	
		I-③	10	勝敗の結果を素直に受け入れ、自分を省みようとしている。	
II 思考・判断	行動観察	II-①	11	自分の体型・体格あった技を選んでいる。	
		II-①	12	自分の能力を把握し、使える技を選んでいる。	
		II-②	13	試合者の動きに応じて移動しながら、状況を見て判定している。	
		II-③	14	相手の動きや体勢に応じて、技をかける機会を見つけている。	
		II-③	15	自分の体型に応じた課題を設定している。	
		II-④	16	自分の能力に応じた課題を設定している。	
	学習ノート	II-①	17	自分にあった技が選べる。	
		II-①	18	技の習得のために課題が設定できる。	
		II-④	19	課題の達成状況により、さらに新しい課題の設定ができる。	
III 運動の技能	行動観察	III-①	20	技をかけるために自ら動き、相手を移動させて技をかける。	
		III-②	21	自分の能力に応じて身につけた技で練習をしている。	
		III-③	22	相手の体格に応じて、得意技をかけることができる。	
	技能テスト	III-③	23	相手の体勢に応じて技の入り方を変えてかけることができる。	
		III-③	24	相手のかけた技をかわし、返し技で攻撃する。	
		III-③	25	背負い投げ、体落とし、払い腰等で投げるができる。	
		III-③	26	大外刈り、大内刈り等で投げるができる。	
III-③	27	試合			
IV 知識・理解	行動観察	IV-①	28	相手を敬い、礼儀を重んじた行動様式を理解している。	
		IV-②	29	ルール、審判法について理解している。	
		IV-②	30	試合の運営方法を理解している。	
		IV-③	31	自分の課題を認識し、課題解決のための練習方法を知っている。	
	学習ノート・テスト	IV-④	32	禁止事項や安全に関する具体的事項を説明できる。	
IV-①		33	柔道の特性や伝統的な考え方を理解している。		
IV-③	34	自分の技がかからない原因を知り、練習方法の見通しが立つ。			
IV-全	35	小テスト			

総時間数 () 時間 , 欠席時間数 () 時間 , 見学時間 () 時間